

# 地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路 大町市街地区間 ～複数のルート帯案と評価項目の設定～

平成31年2月  
大町建設事務所

＼国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催／



第36回全国都市緑化信州フェア  
信州花フェスタ2019  
～北アルプスの贈りもの～

2019.4.25 - 6.16



しあわせ信州

# 地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」大町市街地区間 ～複数のルート帯案と評価項目の設定～ も く じ

## 1 大町市都市計画MP策定時(H26.3)の検討と今回の検討との違い

1-1：大町市都市計画MPの検討の経緯

1-2：公共事業を実現するために必要な検討内容(新たな視点)

## 2 大町市都市計画M P 策定時(H26.3)の検討の概要

2-1：各種団体との懇談会・勉強会、大町市都市計画M P 策定委員会の概要

2-2：大町市都市計画MPの概要

## 3 道路計画策定プロセスについて

3-1：計画策定プロセス

3-2：「検討の進め方と課題の共有等」(STEP1・2)

3-3：「複数のルート帯案と評価項目の設定」(STEP3)

## 4 複数のルート帯案の設定

## 5 ルート帯の評価項目の設定

5-1：「道路計画の目標」に対する評価項目

5-2：「事業の評価」に対する評価項目

5-3：評価項目(案)

5-4：評価項目の評価の視点

## 6 今後の予定

※MP:マスタープラン

# 1 大町市都市計画MP策定時<sup>(H26.3)</sup> の検討と今回の検討との違い

※MP:マスタープラン

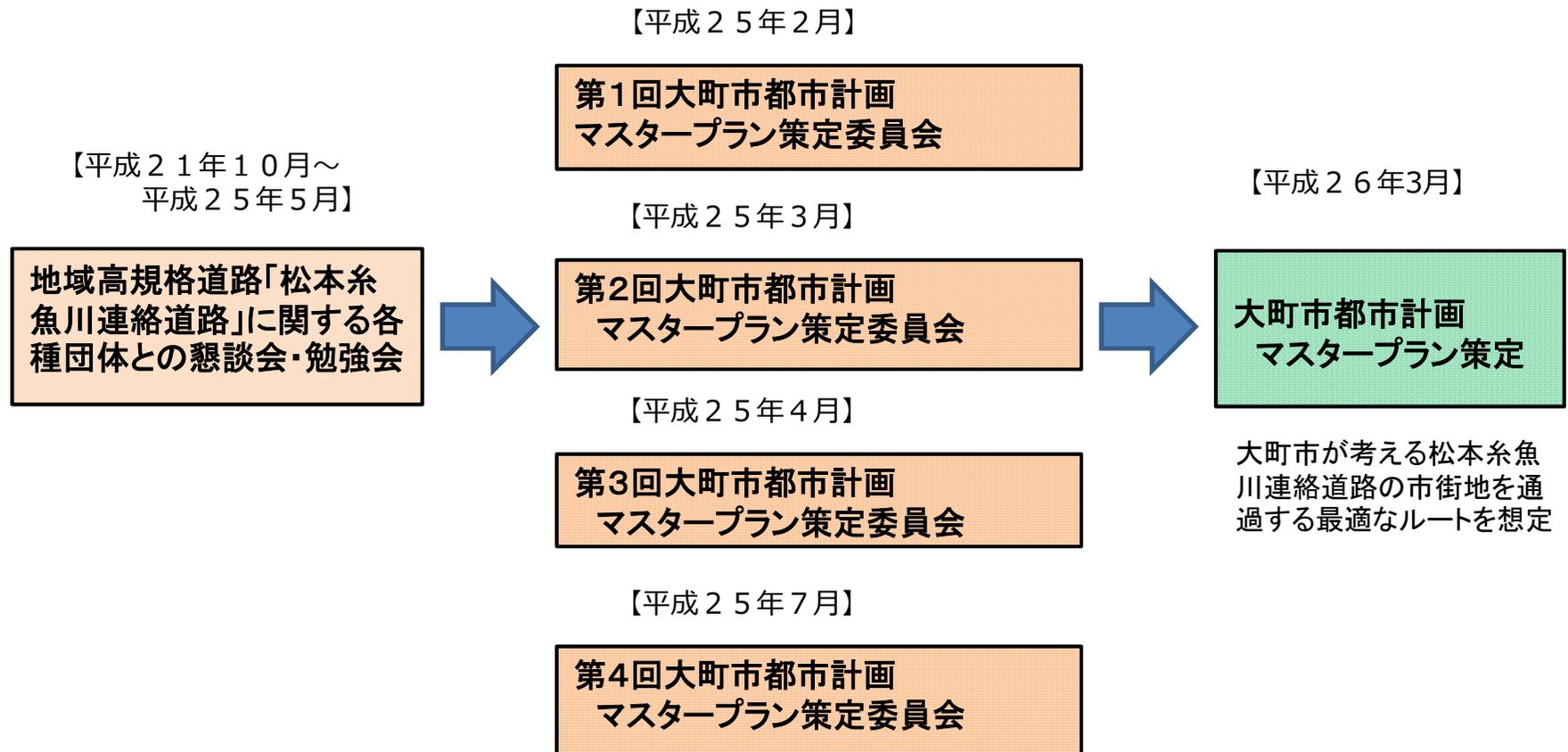
＼国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催／



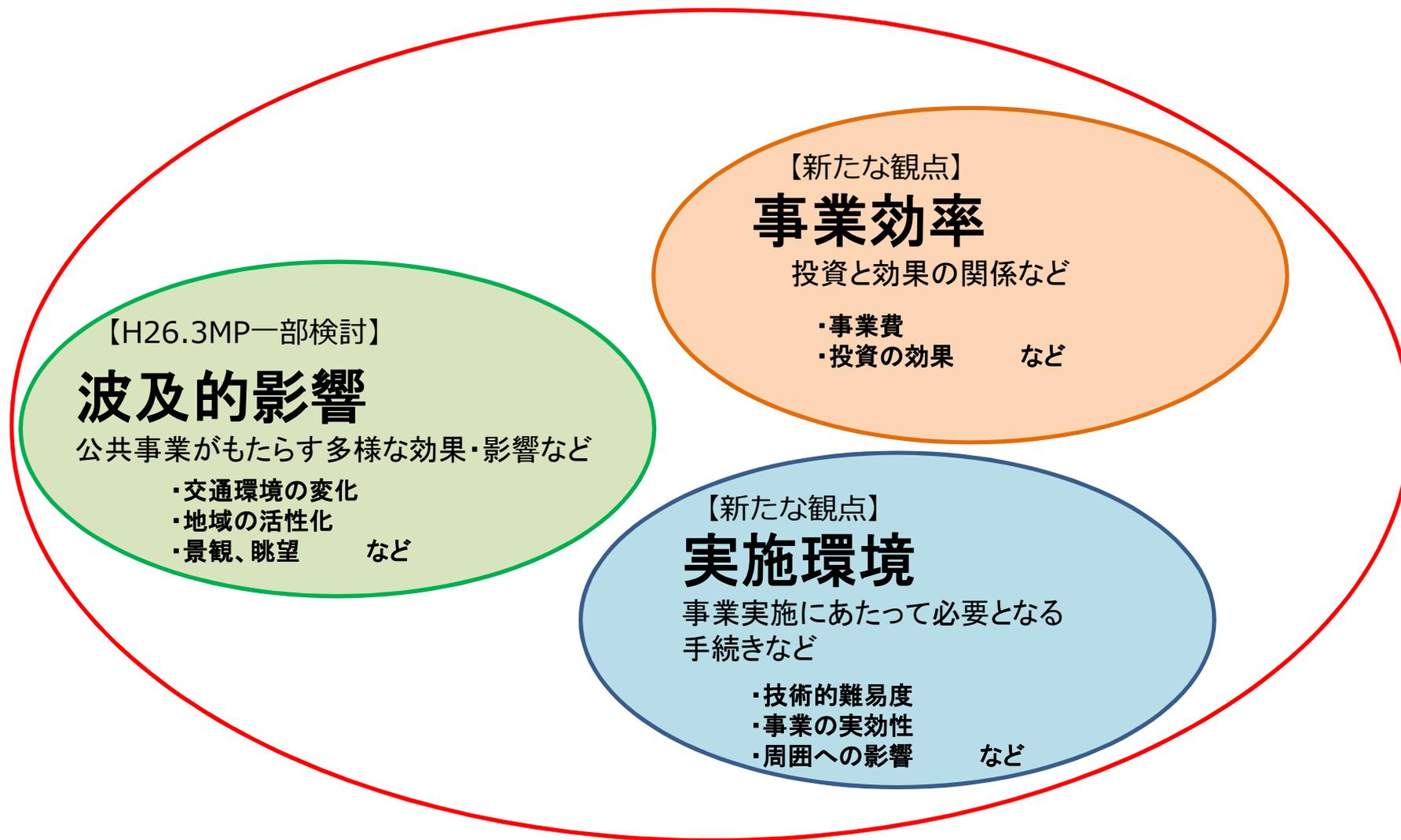
しあわせ信州

# 1-1 大町市都市計画MPの検討の経緯(H26.3策定時)

※MP:マスタープラン



## 1-2 公共事業を実現するために必要な検討内容(新たな観点)



- 大町市都市計画MP策定時(H26.3)は主に波及的影響について議論をした
- 今後は事業効率、実施環境の観点からも議論・評価していく

## 2 大町市都市計画MP策定時(H26.3) の検討の概要

＼国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催／



しあわせ信州

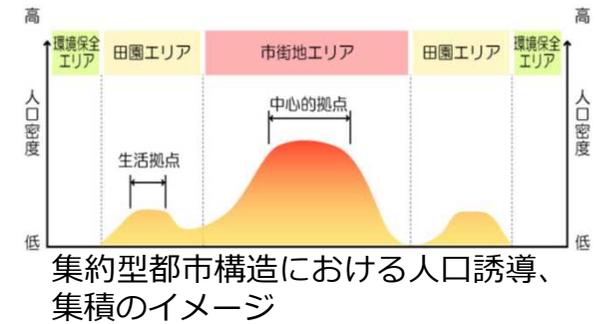
## 2-1 各種団体との懇談会・勉強会、大町市都市計画MP策定委員会の概要

各種団体との懇談会・勉強会(H21～H25)、大町市都市計画マスタープラン策定委員会(H25)  
議論の着眼点の整理

着眼点	主な意見
・災害に強い道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害警戒区域などが近接しており、対策が必要となる可能性がある。</li> <li>・東ルートは土砂災害警戒区域はどのあたりになるのか</li> <li>・東側は地盤が悪く、活断層があるとも聞いている。</li> <li>・断層の位置関係をアバウトに考えているようだが、その点は考慮しているのか。</li> </ul>
・交通の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道147号では土日に渋滞が発生する箇所があり、考慮して欲しい。</li> <li>・西側地域は生活基盤としての道路は整っているため、東ルートでの整備を望む。</li> <li>・最短距離を考えると東ルートが望ましい。</li> <li>・高規格道路は、事故なく早く行ける道路を造るのが一つの狙いだと思う。</li> <li>・中央ルートはクランク的な平面線形となることから高速性への影響が懸念される。</li> </ul>
・地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路ICから20分程度で地域へ連絡できれば、誘客効果が高い。</li> <li>・西ルートは生活道路や生活基盤が多く分断されてしまう。</li> <li>・中央のルートだと地域が分断される恐れがある。</li> <li>・八坂地区や美麻地区へのアクセスを考慮すると東側ルートが望ましい。</li> <li>・アクセス道路を強化することにより、市街地の活性化等に繋がると思う。</li> </ul>
・安全な暮らしの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の面から、20～30分程度で松本まで搬送できる道路が欲しい。</li> <li>・中央ルートは近隣住民の生活環境の悪化が心配される。</li> <li>・市街地の連続的な立体構造では、日照問題や騒音等、生活環境への影響が懸念される。</li> </ul>
・環境・景観の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路1本でまちの形態が全く変わることは考えられる。</li> <li>・農振農用地はなるべく潰してほしくない。</li> <li>・西ルートは田園風景が損なわれる。</li> <li>・東ルートは農具川からの北アルプスの景観を失ってしまうので反対。</li> <li>・東ルートの方が高台であり、北アルプスの眺望が良い。</li> <li>・中央ルートは住宅地を通過するため近隣住民への騒音が心配される。</li> </ul>
・事業費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東ルートの方が用地買収費用が安価ではないか。</li> </ul>

# 2-2 大町市都市計画MP(H26.3)の概要

## ◆大町市の将来都市構造図



土地の区分		市街地エリア	用途指定により行政や商業等の都市機能が集積するエリア
		田園エリア	優良農地の保全、田園と調和した集落を形成するエリア
		環境保全エリア	森林・山岳、河川など環境保全を図るエリア
都市活動拠点		中心的拠点	人・もの・情報が行き交う都市活動の中心
		生活拠点	地域の中心として日常生活に必要な機能を確保
		歴史・文化拠点	維持・保全とともに観光活用等を図る施設
		自然・観光拠点	自然環境の保全とともに観光に資する場
骨格軸		交流拠点	自然とのふれあいやレクリエーションを通じ、市民生活に憩いと安らぎを与える場
		広域都市連携軸	周辺都市との広域的な交流・連携等を担う
		地域連携軸	地域間、拠点間を結び、交流・連携を担う
		自然観光交流軸	中心的拠点と自然・観光拠点の交流・連携を担う

※図で示した松本糸魚川連絡道路の市街地を通過するルートは、本MPにおいて大町市が考える最適ルートとして想定したものです。

出典：H26.3  
大町市都市計画マスタープラン

# 3 道路計画策定プロセスについて

＼国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催／



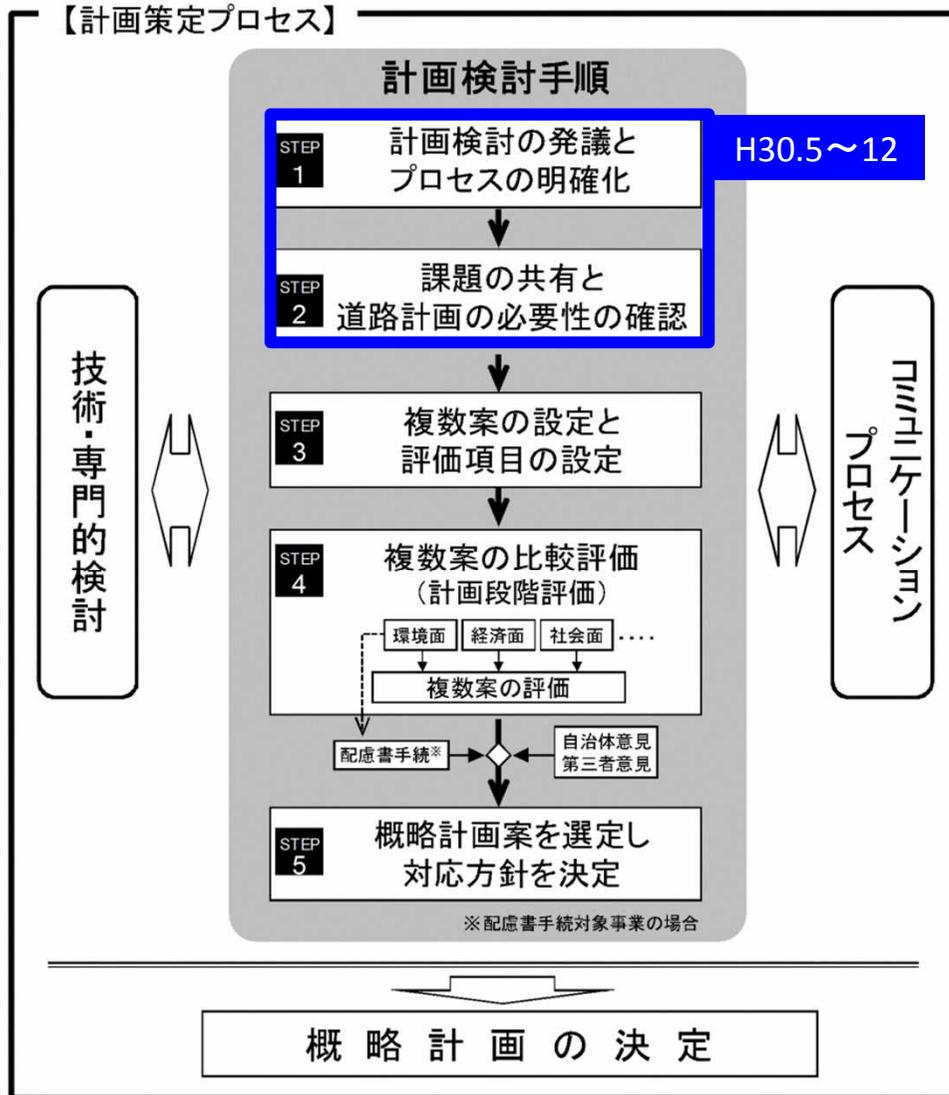
第36回全国都市緑化信州フェア  
信州花フェスタ2019  
～北アルプスの贈りもの～

2019.4.25 - 6.16



しあわせ信州

# 3-1 計画策定プロセス



**STEP1・2 検討の進め方と課題の共有等**

H30.5~12 都市計画MP策定委員、関係団体及び市民の皆様と意見交換会を実施

図 計画検討手順の流れ

資料: 構想段階における道路計画策定プロセスガイドライン  
(平成25年7月国土交通省道路局)

## 3-2 「検討の進め方と課題の共有等」 (STEP1・2)

### 地域の現状と課題

「災害」「交通」「事故」「観光」「物流」「医療」「環境」の観点で大町市街地の現状と課題の整理を行った。

### 道路計画の目標

- 1 災害に強い道路** : 信頼性が高いルート確保
- 2 交通の円滑化** : 交通混雑の緩和、サービス速度を確保
- 3 地域活性化（産業・観光等）** :  
高速道路ICまでの走行時間短縮と定時性の向上  
交流促進、地域活性化の支援
- 4 安全な暮らしの確保** : 高次救急医療機関への速達性向上
- 5 環境・景観の保全** : 環境への配慮と良好な景観形成

○STEP2:地域の課題等を共有し、道路計画の目標案を設定

## 3-2 「検討の進め方と課題の共有等」 (STEP1・2)

### これまで開催した意見交換会

平成30年	5月30日	(水)	都市計画MP策定委員
平成30年	9月18日	(火)	社会福祉協議会
平成30年11月	19日	(月)	社公民館
平成30年11月	21日	(水)	常盤公民館
平成30年11月	27日	(火)	平公民館
平成30年11月	29日	(木)	大町合同庁舎
平成30年12月	4日	(火)	八坂支所
平成30年12月	6日	(木)	美麻公民館

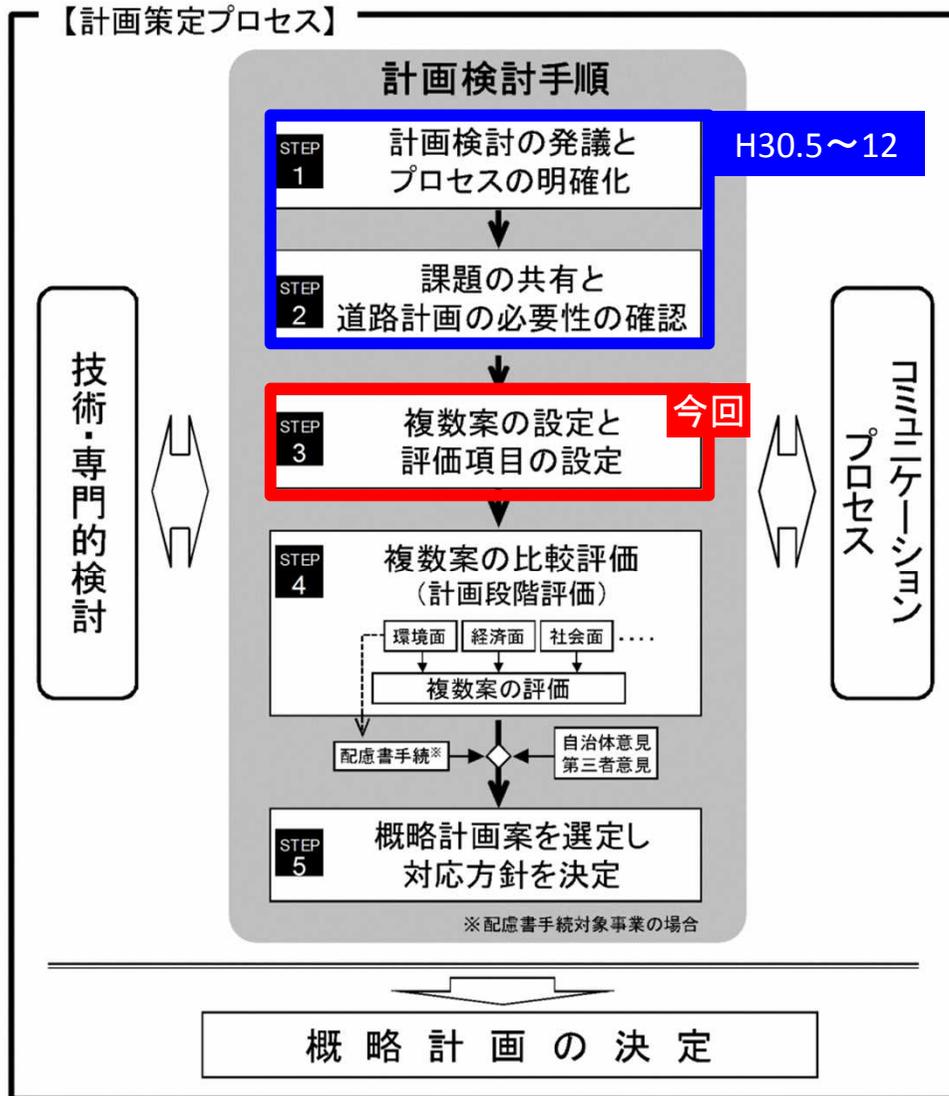
## 3-2 「検討の進め方と課題の共有等」 (STEP1・2)

### 意見交換会での主なご意見

着 眼 点	主 な ご 意 見
・災害に強い道路	・災害に強い道路をつくって欲しい。
・交通の円滑化	・高速道路(安曇野北IC)へのアクセスの向上を期待している。 ・どのルートになったとしてもアクセス道路をきちんと整備して欲しい。
・地域の活性化	・交流促進型の道路ということで、「道の駅」の設置も検討して欲しい。 ・大北地域から県都長野市へのアクセスを考えると東側が一番良い。 ・新しい道路をつくって機能を分散させるより、既存のルートを整備し機能の集約化を考慮して欲しい。
・安全な暮らしの確保	・騒音対策として防音壁を作って欲しい。 ・大型車の通行が増加することが見込まれるため、騒音対策や排気ガス対策をしっかりと行って欲しい。
・環境・景観の保全	・防音壁を設置した場合に北アルプスの眺望が確保できるのか。

その他のご意見	ご 意 見 の 概 要
・早期整備	・なるべく早く松糸道路を整備して欲しい。 ・市街地以外の進めやすい区間を先行整備して欲しい。
・安曇野市の進捗状況	・安曇野市の状況を教えて欲しい。
・他町村での意見交換会の実施	・大町市のみではなく、他町村でも同様の意見交換会をやったらどうか。
・市街地東側での整備	・防災面を技術的にクリアできるのであればMPで決めた東側にすべき。 ・西側には道が何本もあるので東側に新しい道を作るべき。
・市街地西側での整備	・西側市道は非常に交通量が多いので西側市道を高規格道路として整備したらどうか。 ・観光地に近い西側が優れている。
・ルート帯選定 県への一任	・ルートの選定は多くの情報を持っている県に一任すべき。 ・県が大局に立って正しい判断をし、決めるのがこの段になっては一番よい。

# 3-3 「複数のルート帯案と評価項目の設定」(STEP3)



**STEP1・2 検討の進め方と課題の共有等**

H30.5~12 都市計画MP策定委員、関係団体及び市民の皆様と意見交換会を実施

・意見交換会より、「検討の進め方と課題等」を共有し、道路計画の必要性が確認できたため、次のSTEPへ進む

(今回の予定)

**STEP3 複数のルート帯案と評価項目の設定**

H31春~ 都市計画MP策定委員、関係団体及び市民の皆様と意見交換会を実施

・STEP3では複数のルート帯案の設定とその複数ルート帯案に対する評価項目の設定を実施する

図 計画検討手順の流れ

資料: 構想段階における道路計画策定プロセスガイドライン (平成25年7月国土交通省道路局)

# 4 複数ルート帯案の設定

＼国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催／



第36回全国都市緑化信州フェア  
信州花フェスタ2019  
～北アルプスの贈りもの～

2019.4.25 - 6.16



しあわせ信州



# 4 複数のルート帯案の設定



西ルート帯: 高瀬上橋より北側で高瀬川を横断し、市街地の西側を通過するルート

中央ルート帯: 現国道147号の4車線区間を活用するルート

東ルート帯: 市街地南側に位置する工業地帯より南側で高瀬川を横断し、市街地の東側を通過するルート



# 5 ルート帯の評価項目の設定

＼国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催／



第36回全国都市緑化信州フェア

信州花フェスタ2019

～北アルプスの贈りもの～

2019.4.25 - 6.16



しあわせ信州

# 5-1 「道路計画の目標」に対する評価項目

◆ 各ルート帯案での道路計画の目標の実現性を検証する評価項目（案）を設定する。

道路計画  
の目標

1. 災害に強い道路

実施環境, 波及的影響

2. 交通の円滑化

波及的影響

3. 地域の活性化  
(産業・観光)

波及的影響

4. 安全な暮らしの  
確保

波及的影響

5. 環境・景観の  
保全

波及的影響

ルート帯選定のポイント

- ・土石流危険箇所を回避できるか
- ・地すべり危険箇所を回避できるか
- ・地震時の影響は小さいか
- ・浸水想定区域を回避できるか
- ・道路が被災した際の復旧のしやすさ
- ・災害時の代替機能となるか(リダンダンシーの確保)

- ・交通容量を増加できるか
- ・交通の集中を分散できるか
- ・交通の分散により市街地の旅行速度が向上するか
- ・交通の分散により混雑を回避し事故を低減できるか
- ・走行性が向上するか

- ・高速道路ICまでのアクセス性や定時制が向上できるか(主要幹線軸の機能強化)
- ・市街地、集落が分断されないか
- ・大町市街地や観光地等へのアクセス性がよいか
- ・道の駅の設置が行いやすいか
- ・物流の効率化が図られるか

- ・高次救急医療機関への速達性が向上できるか
- ・住環境への影響は小さいか(騒音・振動等)

- ・土地利用(市街地、農振農用地)への影響は小さいか
- ・景観への影響は小さいか
- ・道路からの眺望はよいか
- ・文化財への影響は小さいか
- ・自然環境(動物、植物、生態系)への影響は小さいか

黒字: MP策定時に議論された項目  
赤字: 今回追加する評価項目

## 5-2 「事業の評価」に対する評価項目

◆ 各ルート帯（案）での事業の評価を検証する評価項目（案）を設定する。

事業の評価	1. 経済性 事業効率	2. 施工性 事業効率, 実施環境	3. 効果の早期発現 事業効率, 実施環境
ルート帯選定のポイント	・事業費 ・維持管理費	・国道への影響 ・JRへの影響 ・河川への影響 ・用地確保の実現性 ・IC設置の容易性	・部分供用の実現性

黒字:MP策定時に議論された項目  
赤字:今回追加する評価項目

## 5-3 評価項目（案）

### ■評価項目案

評価項目		東ルート帯	中央ルート帯	西ルート帯
ルート帯概要		・市街地南側に位置する工業地帯より南側で高瀬川を横断し、市街地の東側を通過するルート	・現国道147号の4車線区間を活用するルート	・高瀬上橋より北側で高瀬川を横断し、市街地の西側を通過するルート
整備イメージ				
道路計画の目標	災害に強い道路	・防災上の危険箇所が多い	・道路が被災した場合の影響が大きい	・防災上の危険箇所が少ない
	交通の円滑化	・現道の交通混雑が緩和される	・現道の交通混雑が緩和される	・現道交通混雑が緩和される
	地域の活性化(産業・観光)	・八坂・美麻地区、長野市とのアクセス性がよい	・中心市街地とのアクセス性がよい	・西側の観光地とのアクセス性がよい
	安全な暮らしの確保	・市街地の騒音、振動の低下が期待できる	・市街地の騒音、振動に影響が出る	・市街地の騒音、振動の低下が期待できる
	環境・景観の保全	・道路からの田園風景や北アルプスの眺望がよい	・土地利用を変更する必要はない	・農振農用地への影響が大きい
事業の評価	経済性	約●00～●00億円	約●00～●00億円	約●00～●00億円
	施工性	・国道を横断する箇所が少ない ・JRを2回横断する必要がある	・新たに国道、JR、高瀬川を横断する箇所はない	・高瀬川渡河部の検討が必要である
	効果の早期発現	・部分供用するためには周辺の道路整備が必要	・部分供用するためには周辺の道路整備が必要	・部分供用がしやすい

※ 各ルート帯の評価コメントはあくまで一例です

※ 評価にあたっては今後、意見交換会を実施し様々な角度から比較評価を行います

## 5-3 評価項目（案）

### ■評価項目案(評価の視点)

評価項目		評価の視点	東ルート帯	中央ルート帯	西ルート帯
道路計画の目標	災害に強い道路	土石流危険渓流の回避			
		地すべり危険個所の回避			
		地震時の影響			
		浸水想定箇所の回避			
		道路が被災した際の復旧のしやすさ			
		災害時の代替機能(リダンダンシーの確保)			
	交通の円滑化	交通容量の増加			
		現道の交通混雑の緩和			
		国道の旅行速度の向上			
		交通事故の減少			
		走行性の向上			
	地域の活性化 (産業・観光)	高速ICまでのアクセス性、定時制			
		市街地、集落の分断			
		中心市街地、観光地へのアクセス性			
		道の駅設置の容易性			
		物流の効率化			
	安全な暮らしの確保	高次救急医療機関への速達性			
		住環境への影響(騒音・振動等)			
	環境・景観の保全	土地利用への影響			
		景観への影響			
道路からの眺望					
文化財への影響					
自然環境への影響					
事業の評価	経済性	事業費			
		維持管理費			
	施工性	国道への影響			
		JRへの影響			
		河川への影響			
		用地確保の実現性			
		IC設置の容易性			
	効果の早期発現	部分供用の実現性			

# 5-4 評価項目の評価の視点

## 道路計画の目標

### 1. 災害に強い道路

#### 評価の視点

- ・土石流危険箇所の回避
- ・地すべり危険箇所の回避
- ・地震時の影響
- ・浸水想定区域の回避
- ・道路が被災した際の復旧のしやすさ
- ・災害時の代替機能(リダンダンシーの確保)

#### 浸水想定区域

高瀬川と鹿島川の合流付近や農具川沿いには、浸水想定区域が広がっています。



#### 地すべり地形分布



#### 土砂災害防止法 指定状況



# 5-4 評価項目の評価の視点

## 道路計画の目標

### 2. 交通の円滑化

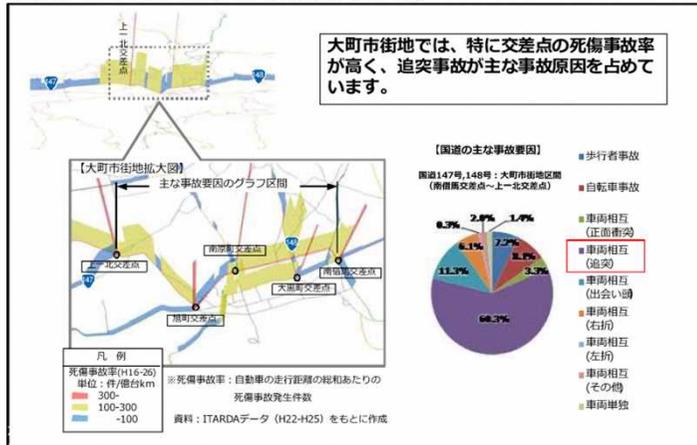
#### 評価の視点

- ・交通容量の増加
- ・現道の交通混雑の緩和
- ・国道の旅行速度の向上
- ・交通事故の減少
- ・走行性の向上

#### 国道における交通事故

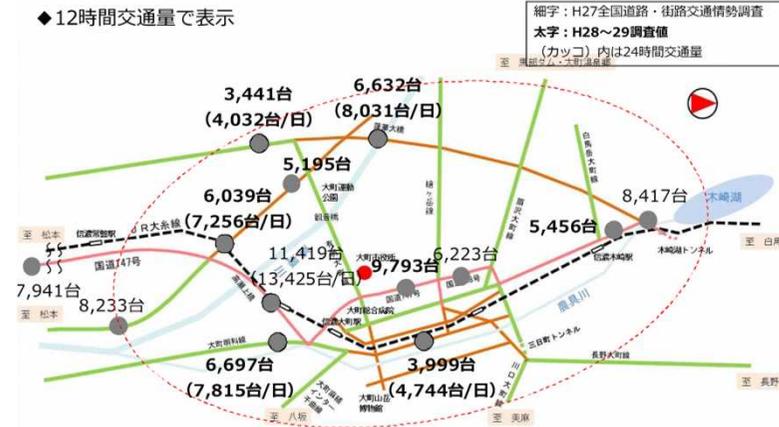
現状・課題 特に大町市街地において死傷事故が多発

◆国道147号、148号と大町市街地の交通事故の状況



#### 現況交通量

◆12時間交通量で表示

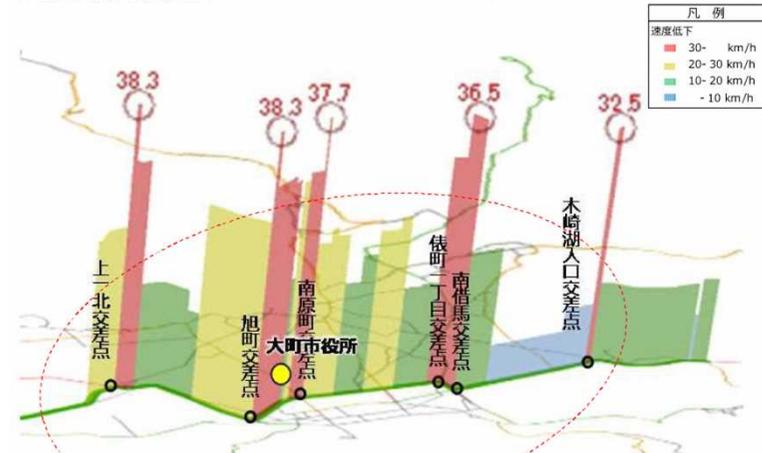


国道は 約5,000~11,000台/12h、  
 東側市道は 約4,000台/12h、  
 西側市道は 約5,000~7,000台/12h が通行しています。

#### 国道における速度低下

現状・課題 大町市街地部(特に交差点)で速度低下が発生 ※冬期の速度低下も有

◆現道における速度低下 ※速度低下:60km/h(目標速度) - 年平均旅行速度km/h(民間プローブデータ、H28.4~H29.3)



# 5-4 評価項目の評価の視点

## 道路計画の目標

### 3. 地域の活性化

#### 評価の視点

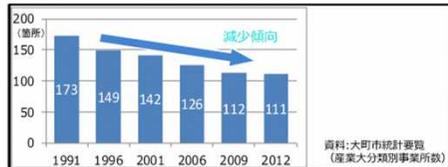
- ・高速道路ICまでのアクセス性、定時制
- ・市街地、集落の分断
- ・中心市街地、観光地へのアクセス性
- ・道の駅設置の容易性
- ・物流の効率化

#### 物流

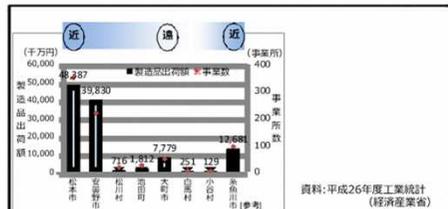
##### 現状・課題

- 大町市内の製造業事業所数は年々減少傾向にある
- 高速道路ICからの距離があり、道路事情が悪い

##### ◆ 大町市内の製造業事業所数の推移

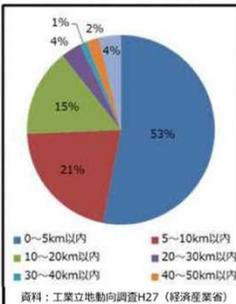


##### ◆ 製造品出荷額とICからの距離



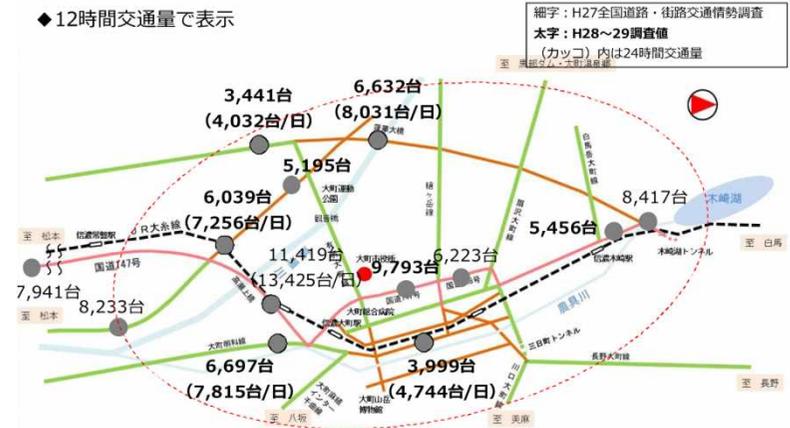
##### 参考

##### ◆ 工場立地とICの関係(全国)



#### 現況交通量

◆ 12時間交通量で表示



国道は 約5,000~11,000台/12h、  
東側市道は 約4,000台/12h、  
西側市道は 約5,000~7,000台/12h が通行しています。

#### 観光

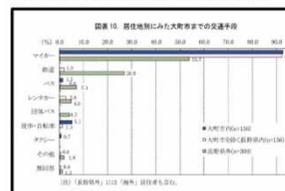
##### 現状・課題

- 大町市は黒部ダム・立山黒部アルプスなど全国的に知名度が高い観光資源に恵まれている
- 市内への観光客数が横ばいまたは減少傾向であるものの、外国人観光客の割合は増加

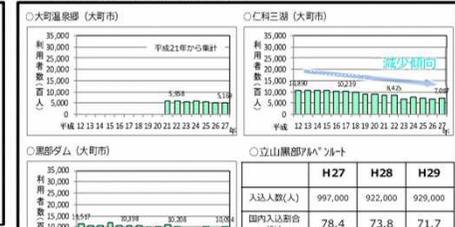
##### ◆ 観光地別入込客数



##### ◆ 国際芸術祭来場者における交通手段



##### ◆ 大北地域の観光客数の推移



観光地	H27	H28	H29
立山黒部アルプス	997,000	922,000	929,000
国内入込割合 (%)	78.4	73.8	71.7
訪日入込割合 (%)	21.6	26.2	28.3

資料: 営業概況(立山黒部観光株式会社)

大町市までの交通手段は、いずれの居住地においても「マイカー」が最も多かった(図表10)。しかし、県外居住者については「鉄道」が26.9%と3割近くを占めている。

鉄道を含む高速道路ネットワークの空白地帯である大町市の観光誘客にとっては「鉄道」が重要な役割を担っている。

出典: 北アルプス国際芸術祭経済効果分析調査業務(H29.10)

# 5-4 評価項目の評価の視点

## 道路計画の目標

### 4. 安全な暮らしの確保

#### 評価の視点

- ・高次救急医療機関への速達性
- ・住環境への影響

#### 救急医療施設へのアクセス性

現状・課題 ■ 大北地域は高次医療施設が少なく、松本地域との医療の連携が必要

##### ◆大北地域周辺の高次医療機関の分布



##### ◆ヒアリング調査結果

###### <搬送に国道147号・148号を利用>

- ・救急搬送の場合、搬送先は信州大学医学部付属病院や慈恵会相澤病院が多い。
- ・国道148号や国道147号を利用して松本市まで搬送する。

資料：H25.1.北アルプス広域消防本部へのヒアリング調査

###### <救命率の向上に期待>

- ・県立こども病院は、県内唯一の周産期母子医療センターであり、周産期搬送は一般の救急搬送よりも危険度が高く、道路整備と救命率向上の関係性は大きい。
- ・ドクターヘリは天候に左右されやすく、常時使えるわけではないため、高規格道路の整備によって道路の凸凹が減ることで、搬送中の治療が安定し、救命率の向上が期待できる。

資料：H25.1.県立こども病院へのヒアリング調査



#### 沿道環境(騒音、振動)

【参考】	国道147号		国道147号市街地		国道148号木崎湖付近	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
等価騒音レベル(dB(A))	75	70	68	62	67	61
振動レベル(dB)	70	65	30	30		
自動車交通量(台/12h)			12,509	9,793		5,456



【参考】	西側市道		東側市道	
	昼間	夜間	昼間	夜間
等価騒音レベル(dB(A))	75	70	65	64
自動車交通量(台/12h)			5,195	3,782

全箇所において、要請限度を下回っている

# 5-4 評価項目の評価の視点

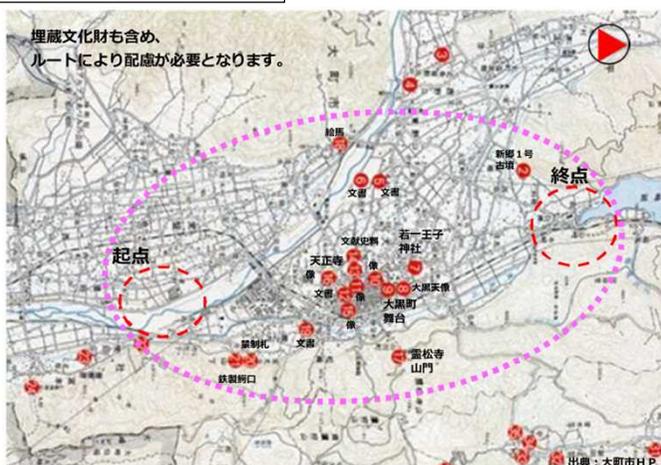
## 道路計画の目標

### 5. 環境・景観の保全

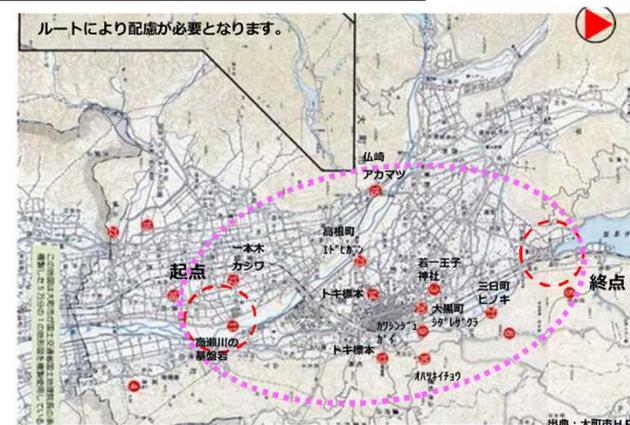
#### 評価の視点

- ・土地利用(市街地、農振農用地)への影響
- ・景観への影響
- ・道路からの眺望
- ・文化財への影響
- ・自然環境(動物、植物、生態系)への影響

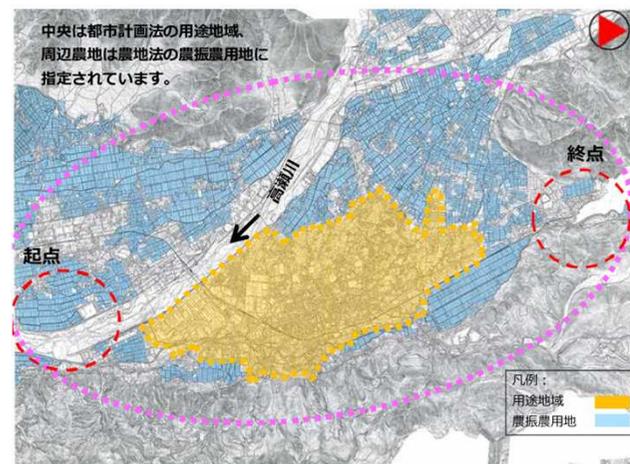
#### 文化財



#### 天然記念物



#### 土地利用



# 5-4 評価項目の評価の視点

## 事業の評価

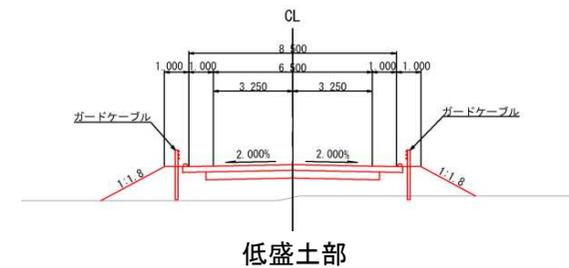
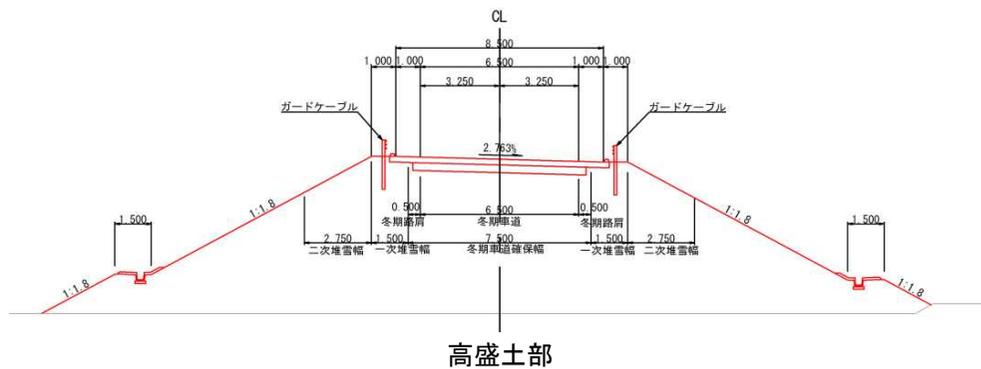
### 1. 経済性

#### 評価の視点

- ・事業費(道路建設費、用地補償費)
- ・維持管理費

例)

- ・道路規格：第3種第2級
- ・設計速度：本線=60km/h、ランプ=40km/h
- ・幅員構成：下図参照



#### 事業費(概算)

費目	工種	金額
道路工事	土工	
	舗装工	
	擁壁工	
	函渠工	
	橋梁工	
	雑工	
	附帯工	
用地補償費	用地費	
	補償費	

# 5-4 評価項目の評価の視点

## 事業の評価

### 2. 施工性

#### 評価の視点

- ・国道への影響
- ・JRへの影響
- ・河川への影響
- ・用地確保の実現性
- ・IC設置の容易性

### 3. 効果の早期発現

#### 評価の視点

- ・部分供用の実現性



# 6 今後の予定

＼国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催／



第36回全国都市緑化信州フェア  
**信州花フェスタ2019**  
～北アルプスの贈りもの～  
2019.4.25 - 6.16



しあわせ信州

## 6 今後の予定

～ これまで ～

### STEP 1・2 「検討の進め方と課題の共有等」

- 2018(H30).2 大町市議会全員協議会、都市計画審議会にて説明
- 2018(H30).5～9 都市計画MP策定員会の構成団体と意見交換会
- 2018(H30).11～12 市内6地区にて一般住民を対象とした意見交換会

#### ■ いただいたご意見

- 災害に強い道路をつくってほしい
- 道の駅設置を検討して欲しい

など

**いただいたご意見を次のSTEP3「複数案の設定と評価項目の設定」に反映**

## 6 今後の予定

～ これから ～

### STEP3 「複数のルート帯案と評価項目の設定」 今回

2019(H31).2.21 大町市議会全員協議会、都市計画審議会にて説明  
2019(H31)春～ 都市計画MP策定員会の構成団体と意見交換会  
一般住民を対象とした意見交換会

**いただいたご意見を次のSTEP4「複数案の比較評価」に反映**

### STEP4 「複数案の比較評価」

2019秋～(目標) 複数ルート帯の比較評価を提示  
意見交換会を実施し、比較評価について意見をいただく

**いただいたご意見を次のSTEP5「最適ルート帯の発表」に反映**

### STEP5 「最適ルート帯の発表」

2019年度末 (目標) 最適ルート帯を選定し、発表する

## 6 今後の予定



～ その後 ～

**最適ルート帯について合意形成を図る**



**最適ルート帯内で細かいルート帯に絞る**



- ⇒ 複数の細かいルート帯案と評価項目を設定
- ⇒ 細かいルート帯の比較評価、最適なルート帯を提示
- ⇒ 意見交換会を実施し、細かいルート帯を決定する

**概略計画の決定**